

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400915		
法人名	株式会社 ほくおうサービス		
事業所名	グループホーム ほくおう 1F ポプラ		
所在地	札幌市西区西野8条4丁目10番12号		
自己評価作成日	平成25年10月23日	評価結果市町村受理日	平成26年2月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170400915-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成25年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症の方が混乱しないで普通の生活を送ることができるようにすることを何よりも優先します。

認知症の方が「心身の痛みを緩和し」「心を癒し」「生活に満足できる」ように導きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手稲二股通りに面し、バス停から1分の交通の便が良い住宅街に立地し、近くには公園、コンビニ、ドラッグストア、西野小学校などがあり、環境に恵まれている。鉄筋コンクリート造3階建て3ユニットの事業所で、中に入ると車椅子使用の利用者でも大きめのエレベーターで楽に移動ができ、各階とも明るく、広さも充分あり、穏やかな環境で過ごすことが出来る。スプリンクラー、各フロアと階段室には消火器が設置され、窓には進入口の表示があり、月一回の避難レクとあわせ災害対策に対する意識が高い。当事業所は地域との結びつきが強く、清掃、輪投げ大会など町内会、地区行事への参加、小学校・児童会館との交流など積極的に行っている。また、消防を含む合同避難訓練時の施設、指導、講評等の場所を提供しており地域への貢献、交流を深めている。町内会長を通じ年4回、当事業所の行事、活動の報告、予定、避難訓練への参加呼びかけなどが掲載される地域広報誌(ほくおうたより)を、町内全世帯に配布して連携を深めている。管理者・職員は外部、内部の研修会に参加して、常に介護の質の向上に努めている。職員は明るく、利用者との会話を通して、お互いの信頼関係が保たれている。利用者は、今ある能力を最大限発揮してその人らしく日々の生活を送っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほんどいない		

(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体の理念だけでなく、事業所内にも理念を作り、日々実践の中で実現していけるよう取り組んでいます。	利用者に喜んでもらいたい私たちが喜べる等の法人理念と、社会(地域)の中で自然に生きる等の事業所理念を作り、理念を全ての階に掲示して、職員で共有し、ケアに活かすよう取り組んでいる。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に町内会、近隣小学校の行事参加、児童会館の子供達との交流会の場を作り地域の方達との交流を深めています。	町内会長を通じ積極的に行事に参加、屋台、夏祭り、ボランティアによるヨサコイ訪問、西野神社の御神輿担ぎ、獅子舞等広く交流がある。小学校によるプランターでの花の育成、運動会観賞、発表会への招待、児童会館とは年10回以上の交流会で地域との交流を深めている。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達には避難訓練参加により実際に車椅子の使用方の講習と実体験していただき、近隣小学校でも講習を開催することで地域の方達との交流の場を作り活かしています。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でサービスの実施状況を報告し、ご家族・地域の方達からもご意見を伺い、サービス向上に取り組んでいます。	2ヶ月に1度開催し、町内会長、包括支援センター職員、利用者家族、近隣住民等毎回10数名ほどの参加があり貴重な意見をもらっている。内容も、避難訓練予定、実施状況の説明、消防の講習、改善点の協議、家族からの相談要望など、町内会行事への参加依頼、運営、進行など、多岐に亘る意見をサービス向上に活かしている。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	回数は少ないですが、包括支援センターの方や管理者会議にて各担当者との情報交換を行いながら、協力関係を築いています。	利用者の変化に対して生活扶助の問い合わせ、利用者に対する医療の範囲の判断など助言・指導、情報を得て協力関係を築いている。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修やユニット会議にて身体拘束をしないケアへの取り組みを行っています。	毎月研修会を開いており、実働職員を除く全員が参加している。毎朝の申し送り事項やフロア会議などで、情報の報告、意見の発表等で共有を図って、身体拘束をしないケアに努めている。徘徊に対して、ドアの開閉は上下2個の電動ボタンを操作するが、ボタンは目立たないように工夫されている。防犯のため夜間のみ施錠している。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて外部講師を招き講習会を開催し知識の習得、事業所内でも常時虐待防止に努めます。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて外部講師を招き講習会を開催し知識の習得、活用できるよう支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時他、直接ご家族様には書面かつ口答での説明を行いながら確認していき十分な時間を設け理解・納得を図っております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様へ意見・要望アンケート実施し、運営に反映できるよう取り組んでいます。	利用者の意見、要望は、日常の会話などから意向の把握に努め、家族は面会のときに口頭で意見、要望を話されることが多く、連絡ノートに書き職員で共有している。また年1回無記名のアンケートにより項目ごとの選択評価、記入形式による事業所への感想、意見要望をとりまとめ、フロア会議に取り入れて、運営に反映させている。	現在無記名のアンケートを年1回実施している。家族の意見・要望をより多く聞くため、今後、前期と後期に1回づつお便りなどを通じてアンケートを実施して、利用者・家族の意見、要望などを吸い上げ、更にサービスの向上に反映する事を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議にて、職員の意見提案を聞き日々の業務の中においても意見反映に努めています。	申し送り事項、ミーティング、ユニット会議のときに意見を発表する機会があり、職員意見の反映に努めている。食中毒への注意、脱水対策、インフルエンザ対策に加湿器の準備など再確認することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に社内試験の実施、課題分析を行い目標を設定することでスキルアップを図っております。目標達成していけるよう個別でのフォローアップ研修も定期的に行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、外部研修、社内研修他、フロア内でのフォローアップ研修も行い実践の中で随時指導を行い質の向上に努め、人材育成に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区主催の勉強会に参加し、ホーム同士の交流を設け自他共に向上を努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、入居前には見学していただいたり、ご本人と事前に面会、会話を図りご家族や担当者とも密に詳細を確認し不安解消を図れるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、日常の様子を見学していただき、相談や要望、ご家族の意向も伺い信頼関係作りにも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族よりお話を伺い生活を送る中で必要としている支援を見極め課題を分析しケアできるよう努力しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活する中で共に喜怒哀楽を感じ、人生の先輩として入居者様からも学ばせていただく姿勢を大切にしています。互いに理解を深め信頼関係を築けるよう支援しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の喜ばれた事や表情、どんな事に困ってどんな援助をし、どのようになったかをご家族にお伝えしています。場面に応じご家族に協力していただけることを取り入れ生活に張り合いが持てるよう支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との面会や交流、ご本人が好まれる場所、外出には快く満足ができる支援ケアに努めています。	利用者家族、本人からの情報を基に、馴染みの場所、友人、行動などを把握する。面会に来た人には、職員が会話が出来る場所を作り、椅子、お茶、飲み物などを提供している。馴染みの店への買い物などには車や職員の同行など、馴染みの関係を継続するよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者との交流が難しい場合は職員が仲介をし孤立感が生じないよう環境を整え円滑な交流が図れるよう支援に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近隣、地域でお会いした際にはお話を伺ったり、電話等での相談にも誠意を持って対応しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用することで入居者様の思いや生活層を把握し、ご本人主体のケアを実践しています。	アセスメントシートに書き込みを続ける事により、思いや、意向の変化を把握することが出来る。職員同士は会話を通じ情報を共有することが出来、本人の意向に沿うことが出来るように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、入居者様より入居前の暮らしについて情報をいただき生活に反映できるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	全スタッフで日々確認振り返りを行い生活状況を毎日記録し、問題点やニーズについては計画書に反映、月1回は全スタッフで話し合い現状把握に努めます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご家族、ご本人から意向を伺い、計画作成担当者を中心にケアカンファレンスを開き、プラン反映、毎月モニタリングを記載していき、半年毎に見直しを行いスタッフ全員がその内容を共有実施しています。	利用者・家族の意向を反映させて、6ヶ月毎に、計画作成担当者は職員等と会議のうえ介護計画を作成している。利用者、家族に説明、同意を得てサービスの提供を行い、利用者の希望に沿うようにしている。変更があればその都度、介護計画を作り直して同意を得るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画書にのった評価と生活状況の記録を毎日行い、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの場所、地域での活動にも参加していただいています。畑作り、近隣への買い物等フロア内での生活に限らず場面に応じた対応を図っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防とも連携を図り避難訓練では地域の方にも参加していただき協力を得、定期的に町内の方、近隣小学生との交流会も開催しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科の定期的往診や看護師の訪問で日常の医療管理を強化しています。特変時には速やかに対応を図り状態経過観察報告をご家族へ行い必要に応じ医師からの説明等も行ってます。	かかりつけ医への受診は家族が同行しており、要望があれば職員が同行することもある。日常の診察、治療、保健指導、定期的な往診などは近隣の病院と連携している。特変に対して家族に連絡、同意を得て、症状に応じて連携がある専門病院にて受診している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週看護師の訪問にて身体状況報告・相談を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けれるよう詳細を説明、一覧をお渡しし経過状況確認、情報交換に努めております。退院後にも生活に支障がないよう医療機関と密に連携を図り、入退院に備えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化した場合の対応についてご家族と、お話をしています。また急に状態が悪化しホームでの生活が困難になった場合も医師、ご家族、本人と話し合いながら納得のいく方法を検討しています。	入所時、利用者、家族に重度化について説明をし同意を得ている。事業所では食事を含め医療行為を必要とする状況に成った時、症状の急変等には、主治医、家族と話し合いを行い、医療機関に入院するなど、希望に添えるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成、消防署より救命講習を受け、応急手当、初期対応の訓練他、フォローアップ研修の場で実践研修も実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力のもと避難訓練を実施し、災害訓練を1回地域住民の方にも参加協力体制を図ってます。避難方法を体得する意味で月1回夜間想定防災レクリエーションを実施しています。	毎月の避難訓練レクその他 消防、地域住民参加の避難訓練を年2回行っている。町内会長はじめ家族、地域住民、職員、利用者が全員避難行動して想定した場所への移動をしており質の高い訓練をしている。消防からの講評、参加者からの意見など、運営推進会議で協議され、運営に活かされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊敬の念を持って接し、言葉使いに配慮し、謙虚な姿勢を心がけています。	職員は一人ひとりの人格の尊重に努め、利用者の目線で、ゆっくり、はっきりと話す事で会話が成立するように努めている。就寝時の室内の施錠は利用者が決めている。又、拘束にならない範囲でセンサー、スズを用い転倒の予防をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人一人に合わせた関わり方を心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の気分や状態に応じ、本人らしさを大切に支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回、訪問理美容を希望により、カット・パーマ・カラーの好みご本人の希望を尊重しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人が可能な限りスタッフ支援のもと家事に参加、食卓は皆で囲み食事が楽しみとなるよう雰囲気作りにも努めています。	利用者一人ひとりに合わせた食事を工夫している。能力に応じ職員と一緒に調理などを行って、季節、イベントなどに合わせ食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士指導のもと栄養バランスの良い食事提供と、水分摂取量は記載確認し把握に努めた支援をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回、歯科往診ケアの実施指導を受け毎食後にケア実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人それぞれの排泄習慣、排泄パターンを把握し身体状況に応じた排泄方法を支援しています。	自立排泄が困難な利用者には、排泄表によりパターンを読み取り、本人からのサイン、動作を見逃さないように、定期的に声掛けをして、目立たない様トイレ誘導を行っている。歩行、運動等することによりADLが高まり、オムツの軽減に繋がった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事管理と乳酸菌の提供、体操等の運動を取り入れたり、病状に応じ腹部マッサージも行い便秘予防に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者のその日の体調や気分に応じて入浴していただいています。その時の状態に応じた対応支援をしています。	1週間に2度の入浴を実施している。時間帯、湯音、湯量、入浴時間等本人の希望に沿う様にしている。入浴を嫌がる利用者もいるが、なぜ嫌がるのか原因を探し、原因を取り除く様に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや、お部屋のベッドなど希望、状況に応じた対応を図っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報に関しては常に確認のできる場所に綴じ必要時には確認して貰います。薬剤師による講習会にも参加し知識向上に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の趣味や個性、得意性を活かせるよう生活の中に取り入れ張り合いが持てるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			実施状況		
						次のステップに向けて期待したい内容		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所のコンビニ、ドラッグストアを活用する事で顔馴染となったり、定期的に外出行事を企画、またご家族の協力を得ながら昔馴染みの場所へも行くことができるよう入居者の状態に応じて希望が叶えられるよう支援しています。	近隣への散歩、散策、大型ショッピングセンターでの買い物ツアー等の外出支援を行っている。定期的行事として、リフト車を使用してドライブ、円山動物園、百合が原公園、五天山へ紅葉狩り等の外出、手作り弁当で食事を楽しむこともある。				
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をできる方には、お小遣いの管理をしていただいています。買い物の際には一緒に確認し支払い代行、状態に応じた対応を図っています。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、状態に応じていつでも支援しています。					
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先や共有スペースには花や観葉植物を置き、アクティビティ時には季節感を取り入れた貼り絵等の作品を作りフロア内に飾っています。また室温や光の調整にも配慮しています。	1階から3階までベランダを除き内部は同じ作りであり、どの階でも3フロア合同の行事が出来る広さがある。行事当番のフロアでは、職員と利用者が一緒に飾り付けや貼り絵等の作品作りをしている。各居室の扉の横の壁には、花や手作り作品を置いてある棚を照明にてライトアップして、生活感など出している。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルやソファ、カウンターでもくつろげるよう工夫を図り入居者によっては馴染みの場所ができています。					
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望によりご家族の写真や大切にされていたもの、ご使用になられていた家具等をご持参いただき居心地の良い環境作りに努めています。	備え付けのクローゼット以外はベッド、タンス、テレビなど馴染みの物を持参している。大きめの居室は、窓から十分採光を取り入れることが出来、温度調整、換気にも配慮し、清掃も行届いていて清潔である。利用者がゆっくり穏やかに過ごせる様工夫している。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を活用したり、日々の生活状況を把握できる事、わかる事を見極め自立支援に努めています。					